



春夏秋冬

榿木館日和

しゅもくかんびより◆第二十七号



文化のみち榿木館
Cultural Path Shumoku Museum

発行日:2023年12月26日

発行:文化のみち榿木館

指定管理者:株式会社COSMO CONSULTANT



時 を刻む館

時を刻む
せわしなく
ゆるやかに

さまざまなか
時の流れが
刻一刻と
時を刻む
かつての館に
住まう人
訪れる人
集う人
それぞれの
在りし時の記憶は
やがてあらたな
歴史や文化となつて
刻まれていく
この館とともに

はじめまして

令和5年4月より、新館長・新副館長が
就任し、約8か月が経ち、あらためての
「あいさつ」ともに対談をいたしました。

香川 こんにちは、館長の香川です。

菅井 副館長の菅井です。こんにちは。

菅井 文化のみち榿木館は、前職の緑生涯学

習センターで勤務していた時に『なご
や学』という講座の現地学習で足を運
んだことがあるのですが、今年4月から
榿木館を管理をさせて頂いていただくよう
なつて、不思議なご縁を感じております。
あつという間の9ヶ月でしたが、館長は
管理する側に立つてみていかがですか？

香川 私も以前はイベントの参加者として何

度か足を運んではいたのですが、いざ管
理をする側の立場となつてみて、これま
で榿木館がたどつた歴史のひとつひとつ
に日々触れる度に、しみじみとその重み
を感じています。

大正末期に井元為三郎氏によつて建てら
れたこの邸宅(現・榿木館)は、太平洋戦争
中に幸い空襲をまぬがれ残りしました。戦
後洋館は進駐軍の占領下におかれた時期
があり、外国人将校一家が住んでいたこと
もあつたそうです。そして当主・三代目啓太
氏の没後数年が経ち、新たに榿木館に人
が入つたのは、平成8年と聞いています。

菅井 その後名古屋住環境会議に関連する

店子(たなこ)5組が借り受け、はじめて
「榿木館」と名付けられ、さまざまなイベ
ントを開催し活用されていたのですよね。

香川 そうです。その後名古屋市の指定有形

文化財となり、市民グループ榿木倶楽
部さんと井元家によつて管理されてい
ましたが、市民の皆さんの願いもあつて
平成21年7月に市の施設として開館し、
指定管理者にNPO法人榿木倶楽部さ
んが選定されて今日まで大切に管理さ
れてきました。

菅井 確かに私たちの引き継いだバトンの重

さが、関わつてこられた人たちの多さの
分、強く感じますね。



香川 これまで榿木館がたどつてきた歴史を

継承しつつ、今後はさまざまなイベント
を通じ、子どもから大人まで、より親し
みのある開かれた文化財として、何度
も足を運んでくださるような施設を目
指していけたらと考えています。

菅井 館長は個人的にも茶室を経営し、広く

皆さんに茶の湯の文化を伝えていらつ
しゃいます。榿木館の庭園にある市有
形文化財の茶室も、貸室としてどなた
でもご利用いただくことができますよ
ね。この茶室の特徴を教えてくださいま
すか。

香川 「撫松庵(ふしようあん)ですね。中板

のある小間茶席になっていまして、この
設えは千利休の孫、千元伯(宗旦)が創
始したと言われているんですよ。
当主・二代目松蔵氏の茶号をとつて
撫松庵と名付けられたと言われていま
す。茶室の中から見ると榿木館の姿もま
た趣きがありますよね。

菅井 江戸末期の茶室を移築されたと言われ

ていて、築150年経っているそうで歴
史を感じますね。

香川 来年、文化のみち榿木館は開館15周

年、再来年は和館が建てられて100
年目の節目の年です。より多くの人に知
つてもらい榿木館の良さを出せるよう
なイベントを企画できればと考えてい
ます。大切な節目に携わることができ
有り難く感じています。そのため何が
できるのか、これからも精進してまいり
ます。

菅井 みなさん、ぜひ文化のみち榿木館へ

お越しください。ご来館を心より
お待ちしております。



文化のみち榿木館 館長
香川 絢子 プロフィール

広島県出身。2011年3月より
400年続く名古屋最古の料亭の
若女将として活躍。
名古屋を拠点に和食の文化、
接客業、日本の伝統文化を盛り立
てるべく邁進する毎日を過ごす。
茶道表千家講師、博物館学芸員、
図書館司書教諭。

指定管理者変更のお知らせ

令和5年4月1日より、
株式会社COSMOCONSULTANT
(コスモコンサルティング)が指定管理者として
文化のみち榿木館の管理運営をさせていた
だくことになりました。
子どもから大人まで楽しめる多様なイベン
トの提供、市民の皆さまにとつて使いやすく
愛される文化施設を目指し、施設管理に努め
て参ります。これからは何卒、ご支援を賜り
ますようお願い申し上げます。

江戸時代、榎木館の地に 住んだ武士

「文化のみちとは」

名古屋城から徳川園に至るエリアは、

「文化のみち」と名付けられ、江戸から明治、大正へと続く名古屋の近代化の歩みを伝える建物など貴重な歴史遺産が今も数多く残されています。榎木館(旧井元為三郎邸)は、名古屋城の東側に位置し、約400年前の江戸時代には、中級武士の居住地として武家屋敷が多く立地していました。尾張藩の尾張徳川家の家臣であった朝日文左衛門重章(あさひぶんざえもんしげあき)によって書かれた日記より、かつて榎木館の地に住んでいた当時の武家の様子をうかがい知ることができます。

「榎木館に住んでいた武家」

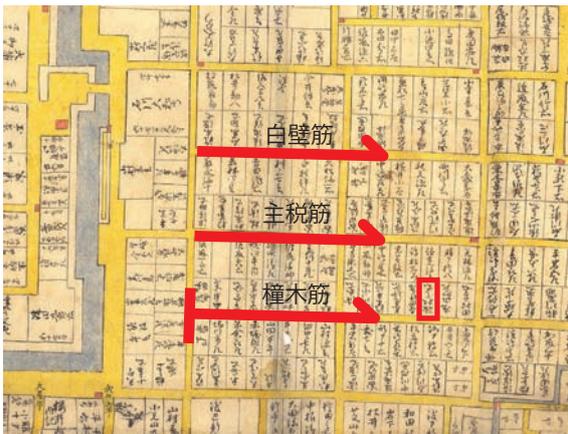
元禄九年(1696)、今から320年以上前の江戸時代のことである。武士・磯松與右衛門重延(いそまつようえもんしげのぶ)は、二代尾張徳川光友より、150石を給されるとともに成瀬隼人正の同心となり、現在の「文化のみち榎木館」に屋敷を構えた。與右衛門重延の祖父、磯松八郎右衛門家常は豊臣秀吉の養子、越前少将・羽柴秀勝に仕えた人物である。

その後、磯松家は代々この地に居住したが、子孫の正九郎が、文久元年(1861)、大番組となり、駿河街道(飯田街道)の南(現在の名古屋市中東区東桜付近)に屋敷替えをした。下部地図(赤の四角枠)には磯松家の名が記されている。代わって長柄筋南東区白壁から「江原瀬左衛門鈴弥(250石)」が移り住んだ。

(朝日文左衛門重章著、鸚鵡籠中記(おうむろうちゅうぎ)より抜粋、要約：伊藤喜雄)

「白壁・主税・榎木エリア」

陶磁器貿易商・井元為三郎が榎木館に邸宅を構えたのは、明治を経て60年後、大正末期のことでした。昭和初期にかけては、名古屋を代表する財界人などが多く移り住むようになり、武家屋敷の地割り・600坪に区画された広大な敷地に、質の高い和風住宅や近代洋風建築などが次々と建てられていきました。平成、令和の時代の移り変わりの中で、多くの建物は取り壊され、新しい街並みへと変化する中で、特に榎木館の位置する白壁・主税・榎木(しらかべ・ちから・しゅもく)エリアは、文化のみちの中でも「町並み保存地区」と指定され、旧豊田佐助邸や旧春田鉄次郎邸(外観のみ一部見学可)、伝統ある料亭など、今なお美しく立ち並ぶ建物を一同に見ることができ、名古屋市により建築遺産の保存・活用が進められています。

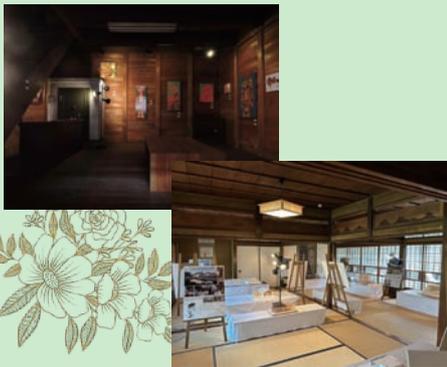


「元禄年間名古屋城下古地図」

名古屋城のお堀に向いての町の町名となつた3本の筋の名前がある。榎木筋上にある赤い四角の位置に「磯松家」の記載がある。

information

貸室のご案内



文化のみち榎木館では、館主催イベントをはじめ、貸室利用によるイベントを年間通しておこなっています。当館では和室・洋室・茶室・蔵・庭園をお貸しします。詳しくは下記の電話番号へお問い合わせいただくかホームページをご覧ください。

TEL:052-939-2850 <https://www.shumokukan.jp>

着物で榎木館

1月はお着物で榎木館にご来館ください!

期間中に着物でご来館された方は
入館料200円→160円になります!
期間:1/4(木)~1/31(水)



公式SNS はじめました

文化のみち榎木館公式SNS・Instagramアカウントの運用を開始しました。日々のできごとや催しのご案内など榎木館の情報を配信していきます。ぜひアカウントをフォローしてください。



@shumokukan
日々のできごと
や景色版



@shumoku_kan
催しのご案内、
告知版